



COUNTER

リリース 5.1

COUNTER COUNTER
のAttributes,
Elements, そのほかの
用語について

フレンドリーガイド



この冊子は、COUNTERリリース5.1実務指針をわかりやすく説明した「フレンドリーガイド」シリーズの一部です

このシリーズは、以下の冊子から成り立っています。

- COUNTERレポートの紹介
- COUNTERメトリックの紹介
- COUNTERのAttributes, Elements, そのほかの用語について
- COUNTERとオープンアクセス
- COUNTERに準拠するには
- コンソーシアム（団体）向けのCOUNTER
- リリース5.1変更点

このシリーズは、わかりやすい日本語で書かれています。COUNTER実務指針の中の文字列は、正確にはアンダースコアを用いてつながれて表記されます。たとえば、Data Typeは正確にはData_Type、Total Item Investigationsは正式にはTotal_Item_Investigationsと表記されますので、ご注意ください。

この冊子で説明されるもの

Attributes（属性）	3
アクセスタイプ	3
コントロールされたもの（Controlled）	4
オープン（Open）	4
自由に読めるもの（Free To Read）	4
データタイプ	5
コンポーネント	5
エレメント（要素）	5
ホストタイプ	5
レポートのカスタマイズと拡張	7
使用可能なほかの要素（Elements）について	7
カスタム値	7
ほかの注意点	8

使用量ゼロ.....	8
欠損あるいは未知の値について.....	8

Attributes（属性）

リリース5.1には4つの主なattributes（属性）があります。それはアクセスタイプ、データタイプ、アクセス方法、および出版年です。

アクセス方法は、ユーザーのアクティビティを区別するもので、「通常」（Regular）とテキスト・データマイニング（TDM）の二つに分かれます。

出版年（YOP）は、出版物が正式に公開された年（4桁の数字）です。まだ正式に出版されていない出版物の場合はYOPとして9999が表示されることもありますし、出版年が不詳の場合は0001となることもあります。

アクセスタイプとデータタイプは少し複雑なので、以下で詳しく説明します。

アクセスタイプ

アクセスタイプは、購読物とオープンアクセス、そして自由に読める出版物を区別するため使用されます。リリース5.1では、アクセスタイプの古い定義を一新し、より理解しやすくしました。

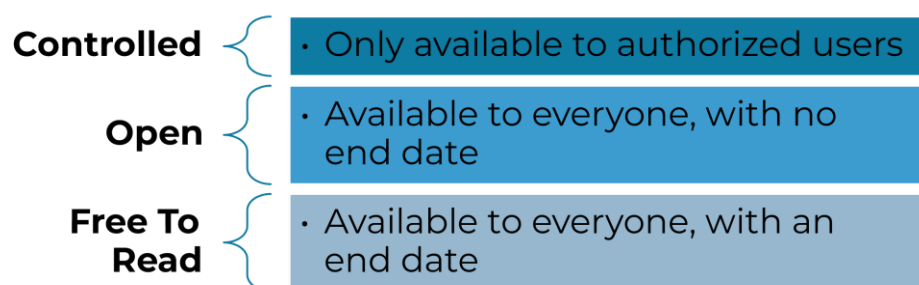


Figure 1. The three Access Types in Release 5.1

リリース5.1では、アクセスタイプの使用方法に関して2つの明確な原則も定められました。

- COUNTERレポートのアクセスタイプは、レポートを提供するプラットフォームにおいてのアクセスタイプが示されます。つまり、購読者のみが利用で

きるデータベース内のOAの本は、アクセスタイプとしては「コントロールされたもの」として報告されます。

- 1つの出版物は1つのアクセスタイプしか持つことができません。なのでたとえば、ジャーナルの1記事がその記事を要約する無料のメタデータとともに提供されたとしても、その記事本文が購読者のみ読めるものであった場合、その記事のアクセスタイプは「コントロールされたもの」として報告されません。

コントロールされたもの (Controlled)

アクセスタイプが「コントロールされたもの」というのは、認可されたユーザーのみが利用できる出版物だということです。ユーザー認可は普通の場合、以下の2通りの方法で行われます。1つ目は、もっともポピュラーなもので、ユーザーの購読状況によるものです。つまり、認可されたユーザーとは、その出版物を定期購読している図書館に所属している人だという状況です（いわゆる「ペイウォール」）。もう1つは、ユーザーは登録したユーザーではあるが、お金を支払って購読はしていないという状況です（いわゆる「データウォール」）。どちらの場合であっても、認可されたユーザーのみしかアクセスが許されないのならば、それはアクセスタイプ上「コントロールされたもの」としてあつかわれます。

オープン (Open)

「オープン」に関しては今日、ありとあらゆる定義が存在しています。この多様な定義について中立であるため、COUNTERでは「オープン」を、「ゴールド」などの特定のビジネスモデルを示唆する言葉や、クリエイティブ・コモンズライセンスなどの特定のライセンスなどに基づいて定義することは避けています。COUNTERにおいて「オープン」とは、出版社がOAであると主張する出版物であると定義します。そのため具体的にどんなライセンスがその出版物に付与されたか、あるいは出版物が元々は「コントロールされたもの」として出版されたかどうか、などはCOUNTERでの「オープン」の定義には関係がありません。なので、いわゆる「ブロンズOA」と呼ばれるタイプの出版物を提供する出版社は、そういった出版物をオープンとして報告することができます。

自由に読めるもの (Free To Read)

「自由に読めるもの」とは、一時的に誰でも無料で利用できる出版物に適用されるアクセスタイプです。例としては、コロナの初期に出版社が期間限定で無料にした特別コレクションの出版物などが挙げられます。

ただ一部の人にのみ無料で利用できるコンテンツは、コントロールされたもの (Controlled) であって、自由に読めるものではありません。例えば、特定の国での

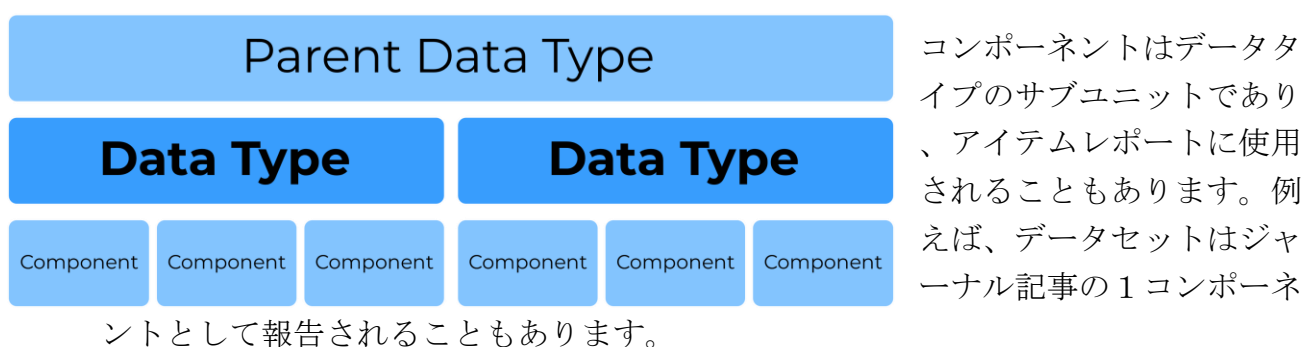
み無料で利用できる出版物は、特定の地域のユーザーのみに無料なので、自由に読めるものには含まれません。

データタイプ

データタイプは、出版物のタイプを区別するための手段として使用されます。例えば、本の利用とビデオの利用を別々に報告するためにデータタイプを使用します。リリース5.1では、以前と比べて、より多くのデータタイプが含まれています。

コンポーネント

コンポーネントはリリース5.1では任意となっています。コンポーネントを使うことで、出版社はアイテムレベルのレポートを簡単に作成できます。



エレメント（要素）

要素 (Elements) とは、COUNTERレポートやCOUNTERレポートの標準ビューで表示される列見出しのことです。プラットフォームレポートを見ると、attributes (属性) がエレメント (要素) としても使用されることがよくあります。実際の例をみたい場合は、実務指針にCOUNTERレポートのサンプルがありますのでご参照ください (<https://cop5.projectcounter.org/en/5.1>)。

ホストタイプ

ホストタイプ (Host Types) は厳密には属性や要素ではありませんが、COUNTER実務指針のなかでもとくに重要な部分です。というのも、出版プラットフォームのホストタイプによって、その出版社が提供する必要のあるレポートが決まるからで

す。複数のコンテンツタイプを持つプラットフォームは、複数のホストタイプに該当することになります。

以下の表には、各ホストタイプの簡単な説明とそのプラットフォームの出版社が提供する必要のあるCOUNTERレポートが示されています。COUNTERレポートのなかでどういったスタンダード・ビューあるのか知りたい場合は、「COUNTERレポートの紹介」の冊子をご参照ください。

Host Type	Description	COUNTER Reports
A&I Database	ディスカバリーをサポートする要約やインデックスのデータベース	プラットフォームレポート、データベースレポート
Aggregated Full Content	フルテキストなどのデータベース	プラットフォームレポート、データベースレポート、タイトルレポート
Data Repository	リサーチデータのレポジトリ	プラットフォームレポート、アイテムレポート
Discovery Service	本ほかのメタデータなどのインデックス	プラットフォームレポート、データベースレポート
eBook	Eブックやそのパッケージ	プラットフォームレポート、タイトルレポート
eBook Collection	Eブックのデータベース	プラットフォームレポート、データベースレポート、タイトルレポート
eJournal	ジャーナル、コンファレンス、新聞などの連載物。タイトルごとやパッケージなどで利用可能	プラットフォームレポート、タイトルレポート
Full Content Database	EジャーナルやEブックではないもの	プラットフォームレポート、データベースレポート
Multimedia	オーディオやビデオなどのマルチメディアもの	プラットフォームレポート、アイテムレポート

Host Type	Description	COUNTER Reports
Multimedia Collection	マルチメディアのデータベース	プラットフォームレポート、データベースレポート
Repository	リサーチやそのデータなどの機関レポジトリやサブジェクトレポジトリ	プラットフォームレポート、アイテムレポート
Scholarly Collaboration Network	研究者が情報共有のために使うサービス	プラットフォームレポート、アイテムレポート

レポートのカスタマイズと拡張

COUNTER実務指針は、可能な限りあらゆる事例をカバーするように努めています。一部の出版社はレポートのカスタマイズを希望する場合もあるため、本冊子のこのセクションではカスタマイズの基本を紹介します。

使用可能なほかの要素（Elements）について

実務指針では必須ではないものの、一部のよくある使用例に対応するため、以下の要素（Elements）を使用可能にいたしました。

Customer ID（顧客ID）とInstitution Name（機関名）。COUNTERレポートは通常、単一の機関を対象としていますが、複数の機関のレポート（例：コンソーシアムの場合）を対象とする場合、Customer IDとInstitution Nameで機関ごとに使用状況を分類できます。

また、地理的な分類も行うことができます。これはグローバルレポートで有用です（グローバルレポートに関しては、「COUNTERとオープンアクセス」の冊子をご参照ください）。国レベルで使用状況を知りたい場合、Country Name（国名）とCountry Code（国コード）が使用できます。もっと詳細な地理情報が必要な場合は、Subdivision Name（地域名）とSubdivision Code（地域コード）を使用します。さらに、ある一機関における使用なのかどうかを示すAttributes（属性）要素も、グローバルレポートをフィルターする時に便利です。

最後にご紹介する要素はFormat（形式）で、この要素にはHTML、PDF、またはOtherの値が使えます。ただこの要素は制限が厳しく、タイトルレポートのTotal Item Requests、またはカスタムレポートでのみ使用できます。

カスタム値

前述のように、COUNTERのAttributes（属性）はあらかじめ決められた値を使うように制限されています。ただ、出版社は、{namespace}:{value}の形式を使用して、あらかじめ決められたものにカスタム値を追加することができます。例えば、以下のような形式です。

- Data Type（データタイプ） カスタムの例：PubA:YouTube埋め込み
- Access Type（アクセスタイプ） カスタムの例：PubA:集約サーチ
- Access Method（アクセス方法） カスタムの例：PubA:広告用
- Metric Type（メトリックタイプ） カスタムの例：PubA:リンクアウト総数

ほかの注意点

使用量ゼロ

COUNTERレポートには使用量がゼロのものは含まれていません。理由としては、レポートのサイズを軽くするためもありますが、多くの出版社において、購読者データと出版物使用量のデータが別々であるせいで、ゼロ使用をレポートに含むことが技術的に困難という問題のせいでもあります。ゼロ使用量のある購読タイトルを特定する必要がある場合は、NISO RP-26-2019「KBART Automation: Automated Retrieval of Customer Electronic Holdings」を参照してください（<https://www.niso.org/publications/rp-26-2019-kbartautomation>）。

欠損あるいは未知の値について

出版社もすべての要素（Elements）について必ずその値を把握しているとは限りません。たとえば、ISBNのない書籍などが挙げられます。こういった場合、COUNTERレポートでは値が空白のままになります。

より詳しい情報について

より詳しい情報については、Code of Practice (<https://cop5.projectcounter.org/en/5.1>)とCOUNTER Media Library (medialibrary.projectcounter.org) をご覧ください。

答えがどこにも見当たらないご質問がある場合は、当社のプロジェクト・ディレクターの下記のメールアドレスにご一報ください。
tasha.mellins-cohen@counterusage.org



COUNTER

Thanks to our generous sponsors,
Friendly Guides will soon be available in...

Chinese

Sponsored by SpringerNature

SPRINGER NATURE

German

Sponsored by Thieme

 **Thieme**

Spanish

Sponsored by Gale

 **GALE**

French

Translated by the Couperin Consortium and
the Canadian Research Knowledge Network

Japanese

Translated by Yuimi Hlasten, Denison College

